

財務諸表に対する注記

(2018(平成30)年 4月 1日から2019(平成31)年 3月31日まで)

1. 重要な会計方針

(1) 有価証券の評価基準及び評価方法

- ① 満期保有目的の債券
償却原価法(定額法)による。
- ② その他の有価証券
決算日の市場価格に基づく時価法による。

(2) 固定資産の減価償却の方法

- ① 有形固定資産
定率法による。但し、1998(平成10)年4月1日以降に取得した建物、および2016(平成28)年4月1日以降に取得した建物附属設備・構築物については、定額法による。
なお、主な耐用年数は次のとおり。

建物	15年～50年
建物附属設備	8年～17年
構築物	20年～50年
什器備品	3年～15年
- ② 無形固定資産
定額法による。
なお、耐用年数は次のとおり。

ソフトウェア	5年
--------	----

(3) 引当金の計上基準

- ① 賞与引当金
職員並びに常勤役員に対する賞与の支給に備えるため、支給見込額のうち当期に帰属する金額を計上している。
- ② 退職給付引当金
職員の退職給付に備えるため、当期末における退職給付債務に基づき、当期末において発生していると認められる額を計上している。
- ③ 役員退職慰労引当金
常勤役員の退職慰労金の支給に備えるため、規程に基づく期末要支給額を計上している。

(4) 消費税等の会計処理

消費税等の会計処理は、税抜方式による。

2. 基本財産及び特定資産の増減額及びその残高

基本財産及び特定資産の増減額及びその残高は、次のとおりである。

(単位:円)

科 目	前期末残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高
基本財産				
基本財産引当有価証券	2,299,853,462	272,738,266	178,473,027	2,394,118,701
基本財産引当預金	478,305,589	1,966	1,966	478,305,589
小 計	2,778,159,051	272,740,232	178,474,993	2,872,424,290
特定資産				
退職給付引当資産	32,562,000	26,624,000	32,562,000	26,624,000
建物	523,149,555	—	35,292,225	487,857,330
構築物	24,455,501	—	1,667,183	22,788,318
什器備品	2,075,661	—	665,884	1,409,777
小 計	582,242,717	26,624,000	70,187,292	538,679,425
合 計	3,360,401,768	299,364,232	248,662,285	3,411,103,715

基本財産引当有価証券の当期増加額のうち125,196,860円は、公益財団法人清明会からの残余財産贈与分である。

3. 基本財産及び特定資産の財源等の内訳

基本財産及び特定資産の財源等の内訳は、次のとおりである。

(単位:円)

科 目	当期末残高	(うち指定正味財産からの充当額)	(うち一般正味財産からの充当額)	(うち負債に対応する額)
基本財産				
基本財産引当有価証券	2,394,118,701	—	(2,394,118,701)	—
基本財産引当預金	478,305,589	(9,500,000)	(468,805,589)	—
小 計	2,872,424,290	(9,500,000)	(2,862,924,290)	—
特定資産				
退職給付引当資産	26,624,000	—	—	(26,624,000)
建物	487,857,330	(487,857,330)	—	—
構築物	22,788,318	(22,788,318)	—	—
什器備品	1,409,777	(1,409,777)	—	—
小 計	538,679,425	(512,055,425)	—	(26,624,000)
合 計	3,411,103,715	(521,555,425)	(2,862,924,290)	(26,624,000)

4. 固定資産の取得価額、減価償却累計額及び当期末残高

固定資産の取得価額、減価償却累計額及び当期末残高は、次のとおりである。

(単位:円)

科 目	取得価額	減価償却累計額	当期末残高
建物(特定資産)	1,453,995,949	966,138,619	487,857,330
構築物(特定資産)	125,500,000	102,711,682	22,788,318
什器備品(特定資産)	100,111,919	98,702,142	1,409,777
建物附属設備(その他固定資産)	690,000	366,517	323,483
什器備品(その他固定資産)	10,669,356	7,086,466	3,582,890
ソフトウェア(その他固定資産)	5,160,000	774,000	4,386,000
合 計	1,696,127,224	1,175,779,426	520,347,798

5. 満期保有目的の債券の内訳並びに帳簿価額、時価及び評価損益

満期保有目的の債券の内訳並びに帳簿価額、時価及び評価損益は、次のとおりである。

(単位:円)

科目、種類及び銘柄	帳簿価額	時 価	評価損益
基本財産引当有価証券			
日本郵船株式会社	100,000,000	100,881,000	881,000
三菱UFJフィナンシャルグループ劣後特約付	51,604,845	51,537,500	△ 67,345
小 計	151,604,845	152,418,500	813,655
投資有価証券			
三菱UFJフィナンシャルグループ劣後特約付	51,604,845	51,537,500	△ 67,345
小 計	51,604,845	51,537,500	△ 67,345
合 計	203,209,690	203,956,000	746,310

6. 指定正味財産から一般正味財産への振替額の内訳

指定正味財産から一般正味財産への振替額の内訳は、次のとおりである。

(単位:円)

内 容	金 額
経常収益への振替額	
減価償却費計上による振替額	37,625,292
合 計	37,625,292

7. 資料の当期末残高

資料の当期末残高は、次のとおりである。

区 分	登 録 数	当期末残高
資 料		
函 書	37,638冊	37,638円(1冊1円)
雑 誌	105種	105円(1種1円)
一 時 資 料	43種	43円(1種1円)
合 計	—	37,786円

8. 退職給付に係る注記

(1) 採用している退職給付制度の概要

退職給付引当金は、簡便法により退職給付に係る引当金及び退職給付費用を計算している。

(2) 確定給付制度

① 簡便法を適用した制度の、退職給付に係る引当金の期首残高と期末残高の調整表

期首における退職給付引当金	24,152,000円
退職給付費用	1,184,000円
退職給付の支払額	△ 9,022,000円
期末における退職給付引当金	16,314,000円

② 退職給付に関連する損益

簡便法で計算した退職給付費用	1,184,000円
----------------	------------

9. 金融商品関係

金融商品の状況に関する事項

- ① 金融商品に対する取り組み方針
当研究所は、資金運用については公社債並びに株式に限定し、投機的な取引は行わない。公社債は国内円建ての債券とし、いずれも満期保有目的の債券である。
- ② 金融商品の内容及びそのリスク
運用資産のうち、公社債・株式については、発行体の信用リスク、市場価格の変動リスクにさらされている。
- ③ 金融商品のリスクに係る管理体制
 - ・金融商品の取引は、当研究所の「資産運用規程」に基づき行う。
 - ・公社債については、発行体の状況を定期的に把握している。
 - ・株式については、時価を定期的に把握している。

10. その他

当財団は、2018(平成30)年12月27日に、公益財団法人清明会から残余財産全額の贈与を受けている。

なお、贈与日に受け入れた残余財産の額は以下の通りである。

(単位:円)

財産内容	受入価額
現金	6,711,859
有価証券(債券)	103,369,000
有価証券(株式)	73,512,360
合計	183,593,219